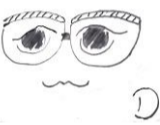




薬の先発品と後発品について

え、先生クスリ変えたんですか？

院長 山口伸幸



「先生！薬を変えたんですか？」と患者さんに言われ、カルテを見て「処方薬は変えてないのに」とびっくり。どうやら後発品の薬剤に薬局で変えたようです。今回は先発品と後発品の薬剤についてわかりやすく説明したいと思います。薬剤の先発品とは、ある製薬会社が薬剤を開発し特許をとり治療（人体での治療効果や副作用を検査）し厚生省で認可を受け発売します。それを元祖A社としましょう。特許があるのでその元祖A社だけその薬を製造販売でき、当然他社ではできません。ただ約7年を過ぎると元祖A社の特許が切れ、他社も製造販売できるようになります。するとそろそろ他社もその薬を製造販売するので後発薬品を業界では「ゾロ」といいます。（笑）さてここで問題なのが、元祖A社の薬と全く同じなんでしょうか？という問題です。主成分は同じなので薬効は同じです。ですが防腐剤や添加材、ボトルも違い、さし心地も違つかも知れません。全く同じではないのです。また各製薬会社は名前も色も違う名称や容器で後発薬を発売することもありました。それでは混乱しますよね。そこで1年前より後発品は薬剤名を一般成分と製薬会社名を合わせた名称に統一することになりました。左図上段でも色は違いますね。しかしすでに販売流通されている薬には下段の先発品と後発品のように名称が全く違うものも残っています。これでは一般の人は同じ薬と思わないかもしれません。更に混乱させているのがこの後発品か先発品かを選ぶのは、患者さんと薬局で決めてよいことになりました。ただ後発品を選ぶときは薬局が患者さんに「先発品と同じ後発品がありますか？と患者さんに確認をとっているはず。つまり下段の様に医師は『ルミガン』と処方しても患者さんは薬局で左の『ピマトプラス』をもらうことになるかもしれないのです。ただ医師はどの薬をもらったか知りません。同じ薬剤なので治療の問題はないのですが、患者さんから見れば医師が処方を変えたように誤解する方もいらっしゃると思います。そして患者さんが「赤い薬をください」とか「青い薬はまだあるからいらぬ」と言っても医師は処方薬の色と患者さんが実際お持ちの薬の色と違うことがあり、わからないので混乱する場合があります。後発品は開発コストがかからないため先発品より3割くらい安くみます。先発品は長年の実績があるので安心です。それを消費者（患者さん）がどう判断し選択するか個人の自由と自己責任になりつつあるのは時代の流れだと思えます。

後発品

先発品



※色が違っても同じ薬

後発品

先発品



※名称が違っても同じ薬

<http://www.yamaguchi-eyeclinic.com>

お知らせ

年末年始休診日のお知らせ

12月29日(水)午後～1月5日(水)まで休診致します。1月6日(木)より通常通り診療致します。なお12/28火曜日は午後手術がありませんので午後も院長の診察があります。12/29午前中(13:00まで)診療致します。

受付時間のお願い

※検査が必要な方は終了時間の30分前には来院下さい。(平日・土曜午前の部は12:30まで、平日午後は18時半まで、土曜午後は17時半まで)特に視野検査がある方、メガネやコンタクトレンズ作成の場合は時間が掛りますので終了時間の1時間前(午前中は12:00、午後は18:00まで、土曜は17時まで)には受付をして下さいますようお願い致します。

編集後記

ほぼ無観客のオリンピックも無事(?)に終わり、メダルラッシュはすごかったですね！メダル獲得順位世界3位らしいです^^！ちなみに1位はアメリカ、2位は中国で3位が日本。この順位は金メダルの獲得数で決めるようです。さて、コロナ陽性者数も減ってきて緊急事態宣言を解除する運びとなりました。以前の様な生活に戻ってくるのでしょうか？第6波がこないで、このままコロナ感染症が終息することを切に願います。

“白内障手術の歴史”

白内障手術はいつから始まったのでしょうか？日本では1360年代の室町時代には白内障手術をしていたという記録があるそうです。当然のことながら麻酔などなく、針を眼球に指し、濁った水晶体を眼球の中に落とすだけ、という原始的な手術だったようです。ものすごく痛い思いをして得られる視力は「物が動くのがわかる程度」なのですからたまったもんではありませんね(^_^;)そして1745年頃(江戸中期)になると濁った水晶体を目の外に取り出す手術が行われるようになりましたが、現在のような眼内レンズはありませんから当然よく見えませんよね、分厚い眼鏡が必要です(-_-;)ちなみにまだ麻酔はありませんよ～(^_^;)さて時代が進み1800年代中頃になってやっと麻酔して手術するようになります。そして1950年頃イギリスで眼内レンズが開発されて広く普及しました。眼内レンズのおかげで、術後に分厚い眼鏡をかけなくてよくなったんですね♪では現在の様な超音波を用いた小切開で折りたたみ眼内レンズを挿入する手術方法になったのはいつ頃なのでしょう？長い歴史の中でみると、実はまだ最近のこと(35年前)なのです。医療の進歩ってすごいですね！



★2022年1月2日東京都休日診療当番で9:00～17:00診療しております。